「設備屋」とは何ですか？と考えた時

丸喜屋設備株式会社　代表取締役専務　兼子　祐喜

私はいわゆるUターン組です。大学を卒業し某メーカーに勤務しており、退社直前の勤務はコンピュータ室でした。丁度その頃、Code Red等のワームやウイルスが大流行し、「情報セキュリティー」と「入退室管理」等での「物理的セキュリティー」が注目を浴びました。私も縁あって情報システムの防御と自動認識システム、遠隔監視装置の開発に携わることが出来ました。

その後、平成15年に実家の都合もあり、退社して山形へ戻り、父が代表を務める水道設備工事店で働くことになりました。今思えば、当時は僅かながら好景気でしたが、「第二創業」と言う言葉が流行っていました。少し余裕のある建設業は「経営革新」をし、「できれば、建設業以外の業種で生き残って下さい」ということが言われておりました。

このままではいけないと感じていた私は、地元商工会主催の「経営革新塾」を何度か受講しました。水道設備工事店の古い体質が嫌いだったこともあり、改革しようと意気込んだのです。そこで、「捨てるものと拾うもの」、「変えるものと活かすもの」、「得意なものと出来ないもの」、「マクロな環境とミクロな環境」、最後には、「自分が好きなものと嫌いなもの」の分別をさせられました。講師の先生から「設備屋とは何ですか？」という宿題が特別に私にだけ出されました。設備＝住宅設備＝水道工事屋と思い込んでいた私に、設備屋とは一体何を指すのか？ということを考えさせてくれたのです。

そこで私は、電気・通信・水道・防犯全部が設備ではなかろうかと考えました。「今や電気・水道・ガス・灯油に加え、インターネット（通信）も我々に欠かせないライフラインになってきている現実、防犯システムだってインターネットを使わなければ作動しない（意味を成さない）ものだって多々あるではないか」と思ったのです。元々電気工事士の資格を持っていたので、上下水道も設備、電気も設備、通信も設備、防犯も設備であると定義付け、防犯設備士の資格を取ることにしました。平成20年のことです。

防犯設備士の試験ですが、事前にテキストを見てびっくりしました。電気と機器の事は何とかなるにしても、サッシと鍵の事が全くと言っていい程分かりませんでした。最初から合格するはずは無いと思いましたが、先ずは小手調べにと受けてみた一回目で合格出来たときは嬉しかったものです。これで、水・空調・電気・通信・防犯のトータルコーディネートを堂々とできる、と喜びました。

その後、山形県警の方と知り合った際に、「防犯設備協会に入ったほうが良いよ」とアドバイスを頂き、山形県防犯設備協会に入会しました。協会では総務委員会に所属し、街頭での告知活動、今年度からホームページ代わりに運用を始めたFacebookページの運用等を主にやらせて頂いております。

Facebookの説明

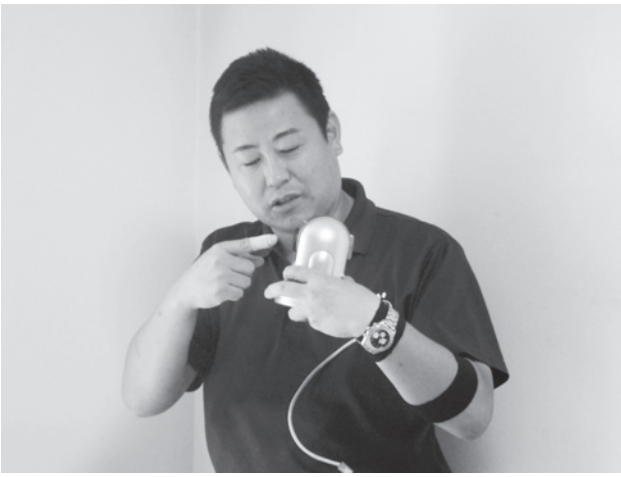
山形県内は特に郡部になりますと、玄関や窓に鍵を掛けないのが普通であり、防犯意識が薄いと言いますか地域の絆があるからこそ、そこでセキュリティーが保たれていると言える土地柄です。会社や店、近所の家に入る際に黙ったまま入って来て、こちらから「どなた？用件は？」等の声を掛けないとずっと黙ったままそこに立っているのですから、20年ぶりに山形で暮らすことになった私は本当にびっくりしました。

私が子供の頃は、近所のおじさん達は皆、家に上がってきてから「いだがぁ～」（方言で在宅か？）と言って居間に上がり込んできた記憶があります。これでは昔よりも後退しているという印象でした。

この土地で、私の提案するWebカメラとHAを組み合わせた遠隔監視と遠隔制御の需要はまだまだ少なく、また当社（水道工事店）が営んでいる業務としての認知度が足りなく、「まだまだ努力が足りないな」と反省するところですが、今まで導入させていただいたお客様からは大変好評を頂いております。

しかし、近郊の街では首都圏から来られる大学生のアパートが増えたり、私の様なＵターン・Ｉターン者が増えてきていますので、錠を掛けるということは当たり前のように増えて来ています。企業でも少しづつですが防犯意識が高まって来ています。地元の小規模事業所から、「遠隔監視について知りたい」等の問い合わせも増えてきましたので、その事業所にお邪魔して防犯機器の説明を行ったり、現地で簡易な防犯診断を行ったりしております。

実際には、なかなか施工に結びつく例が少ないのが目下、頭の痛いところではありますが、これからも防犯設備協会の先輩方にご指導を頂きながら、めげずに地域の防犯に役立つ会社で有りたいと思います。



ネットワークカメラの説明

施工済ネットワークカメラの点検作業